

クロード・モネ 《睡蓮、柳の反映》

デジタル推定復元について

2019年6月28日(金) 19:00 - 20:00

国立西洋美術館 講堂 (企画展示館地下2階)

定員 130名 *当日 18:00 より本館 1階東口付近にて整理券を配付いたします。
場所が不明な場合は、インフォメーションでお尋ねください。

●ご参加には「松方コレクション展」の
チケット(半券可)と整理券が必要です。

松方コレクションのひとつであったクロード・モネ《睡蓮、柳の反映》は、長らく行方がわからなかった作品ですが、2016年にフランスで発見され、翌年、松方家を通じて国立西洋美術館に寄贈されました。

本作品は発見時に画布の上半分を失うなど大きな損傷を受けており、作品本体の保存修復作業では、失われてしまった部分までを取り戻すことはできません。そこで、当館と消失文化財のデジタル復元の実績豊富な凸版印刷株式会社が共同でこの作品の失われた部分も含む全体像をよみがえらせるべく挑戦いたしました。

今回は、このデジタル推定復元のプロジェクトを中心となって進められた凸版印刷株式会社の木下悠さんをお招きして、デジタル推定復元図について制作プロセスや、制作秘話をお話いただきます。展覧会と合わせてお楽しみください。

登壇者

木下 悠 (きのした ゆう)

凸版印刷株式会社文化事業推進本部。1983年長崎県生まれ。九州芸術工科大学芸術工学部卒業。日本大学芸術学部卒業。2008年より凸版印刷。葛飾北斎「須佐之男命厄神退治之図」推定復元プロジェクトや「大坂冬の陣図屏風」デジタル想定復元プロジェクトを担当。芸術的な感性と工学的な発想、デジタル技術と手仕事を橋渡すことで復元などに挑戦している。クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》デジタル推定復元のプロジェクトリーダー。国内外にある類似作品の調査や、画家による描画試作、AI技術を用いた推定への挑戦など、多岐にわたる取り組みを設計・指揮。



《睡蓮、柳の反映》デジタル推定復元とは？

発見時には、
上半分が欠損
した状態。



クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》(修復前)
国立西洋美術館 (旧松方コレクション)



モノクロ写真+現存部

- ・現存部の自然科学的調査で絵具を特定
- ・現存部とモノクロ写真との比較
- ・同時期、同モチーフの作品の調査

国内外の作品を
調査しました。



- ・実際に原寸大で人が描いてみた
- ・AIの推定する配色と比較して
人の調査による仮説の客観性を高めた

推定復元図が
完成

欠損する以前の
作品の全体を撮影
したモノクロ写真



クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》ガラス乾板
建築文化財メディアアーク
photo Pierre Choumoff, Ministère de la Culture (France),
Médiathèque de l'architecture et du patrimoine, dist. RMN-GP

企画展示ロビーにて、
原寸大で投影しています。
ありし日の姿に想いを馳せてみてください。

クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》デジタル推定復元図
監修：国立西洋美術館
制作：凸版印刷株式会社

